

日本建築学会 建築計画委員会

# 住宅地計画 小委員会 @名古屋

コーディネーター：阿部順子

2008年10月11日(土)

## 住宅地計画小委員会@名古屋 旅程表

=トイレ休憩

時刻	見学地名	見学地住所	備考・記録
10:00	集合	岐阜シティ・タワー43、43階無料展望室	岐阜県岐阜市橋本町2-52岐阜シティ・タワー43
10:15	徒歩移動	岐阜駅前～柳ヶ瀬地区	岐阜高専の今田太郎先生がコーディネートして下さいました
10:50	バス移動	高島屋前からバス乗車 マザー・ビレッジ岐阜	(高島屋)岐阜県岐阜市岐阜市日ノ出町2-25
11:30		岐阜県営住宅ハイタウン北方	岐阜県本巣郡北方町大字北方字長谷川1857番地
12:00	バス移動	ハイタウン北方集会場近くの道路からバス乗車	
12:30	昼食	金華地区	昼食「今昔庵」(岐阜市今町1-11)TEL058-266-0766
13:15	バス移動		
13:45	徒歩移動	可児市営広眺ヶ丘住宅	岐阜県可児市広見1033-2ほか
14:10	バス移動		
14:30	バス移動	桜ヶ丘ハイツ	
	徒歩移動		
15:00	集合	西友桜ヶ丘店前からバス乗車	(西友)岐阜県可児市桜ヶ丘 6-74-3
15:40	バス移動	高蔵寺NT(藤山台 岩成台 高森台 中央台)	大幅遅刻の場合、春日井ICから東名高速で梶山へ
16:00		岩成台西 高座台 白山台 リバピア中央台)	結局タイムアウトのため今回は見学できませんでした
16:30		グリーンテラス城山	愛知県小牧市城山5丁目
			小牧JCTから東名高速
17:30		梶山	愛知県名古屋市千種区星が丘元町17-3
18:40	打ち上げ	元祖手羽先唐揚風来坊星ヶ丘店	名古屋市名東区名東本通2-23 TEL052-782-1633 <a href="http://www.furaibou.com/index.htm">http://www.furaibou.com/index.htm</a>

## ツアー参加予定者(敬称略)

- 1 横山俊祐 大阪市立大学
- 2 徳尾野徹 大阪市立大学
- 3 田中友章 明治大学
- 4 三谷幸司 四天王寺大学
- 5 大月敏雄 東京大学
- 6 伊丹康二 大阪大学
- 7 寺川政司 CASEまちづくり研究所
- 8 安原秀 ヘキサworks
- 9 野澤康 工学院大学
- 10 小浦久子 大阪大学
- 11 初見学 東京理科大学
- 12 江川直樹 関西大学
- 13 森永良丙 千葉大学
- 14 田上健一 九州大学
- 15 今田太郎 岐阜高専
- 16 阿部順子 梶山女学園大学

## 打ち上げから参加(敬称略)

- 1高井宏之 名城大学 (当日別件の現地調査が長引かれ、残念ながらご欠席)
- 2戸部栄一 梶山女学園大学
- 3橋本雅好 梶山女学園大学

## お手伝い学生(敬称略)

- 1舟橋恵里(阿部研究室4年)
- 2藤本里奈(阿部研究室3年)
- 3古澤典子(阿部研究室3年)
- 4神谷志保(阿部研究室3年)

## 住宅地計画小委員会「岐阜・名古屋見学会」

主査 横山俊祐

独特の環境資源を有しつつも衰退する既成市街地をはじめとして、新しい住宅地計画として複数建築家の協働による、あるいは敷地の特性を活用した集合住宅、豊かなコモンズに彩られた戸建て住宅地、ゲーティッドを「売り」とする近未来的な戸建て住宅地など、多彩で刺激的な住宅地の見学となりました。見学に触発されて(と言うほど大袈裟でもありませんが)住宅地に関わる課題や方向性を思いつくままに・・・。

今回の見学を通じて、おぼろげながら、生彩ある(Vital)住環境ということが気になりました。人が集まって住むことで、無意識のうちに醸し出される生き生きとした活気のある雰囲気、が希薄のように思います。人や暮らしの気配や手垢は、空間と生活との相互浸透的な様態によって、時間の経過とともに、じわじわと滲み出すものであると言えます。しかしながら、環境の表層性や象徴性(記号性?)の強さや壁のなさが、生活に必要な以上の緊張感を与え、住み手に手垢を着けさせないような印象があります。防犯に特化しネズミー匹通さない(我々は勇敢にも簡単に通りましたが)ことをシンボライズする Gated 住宅、外構を含めて集住景観づくりはデザイナーにお任せで、素人には手を出させないと言わんばかりに旦那芸によって異次元デザインが施された北方団地、土木と建築の合体の面白さはあるものの、本来裏にあたる場所にわざわざ立体通路を廻すことで、動線を一方的に強くコントロールし窮屈な思いのする広眺ヶ丘住宅、芝生の緑道の美しさや各々の庭の緑の多彩さには目を見張るものの、あまりにも整いすぎて、規則に無邪気に従う優等生的景観に却って胡散臭さを感じる桜ヶ丘ハイツなど、環境をコントロールすることが結果的に生活や人までもコントロールしているような印象を受けました。やはり、「隙(スキ)」とか「毀れ(コボレ)」・「緩み(コルミ)」・「手垢(テアカ)」などは重要なように思います。そうしたものが仕込まれた住宅地計画(計画よりも仕掛けが適当かも)でありたいということが実感できたツアーでした。

チョイワル親父にとっては、岐阜駅前の衰退した(しつつある OR しきった)中心市街地が極めて魅力的でした。様々な住宅地から徐々に消失している Vital な気配(猥雑さ)が、例えば、一軒毎に異なる間口や生活空間と店舗の重層・立体化などの空間的な工夫に裏付けられて潜在しているように感じました。三谷さんもコメントされているように、あのような市街地を再生する手だてを考えることが大きな課題だと思います。これまでに蓄積されてきた理論適用の良い機会と捉え、多様な知恵と技術と経験が集積する本小委員会で、再生に向けての実践を仕掛けませんか。ひょっとしたら、そこから新しい再生論や手法が生まれるかもしれませんし、全国の地方都市が抱える典型的且つ共通の課題への取り組みの端緒となりうるかもしれません。いかがでしょうか。

お一人で、見学先の選定から車と食事の手配、懇親会の段取りまで、実に気配りの行届いた(隙のない?)コーディネーションをさせていただいた阿部順子さんに委員会メンバーを代表して深謝。御陰様で、新たな発見があったように思います。

## 1、岐阜の中心市街の衰退と都市のスプロール

「駅前問屋街と柳ヶ瀬の衰退の様子」と「駅前の超高層ビル再開発、県営住宅ハイツ北方の開発」を対比的に見せるすぐれた企画に感心しました。人口減少時代の「都市のあり方、建築の造り方」については大変興味のあるところです。都市的レベルでの計画的規制・誘導と同時に将来を見据えた建築的事業への取り組みの両面の重要性を実感しました。

1) 県営住宅ハイツ北方の開発は、デザインの問題以前に、なぜ衰退した都心を置き去りにして、このような開発を進めているのか疑問です。これだけの県営住宅建設のニーズが岐阜市にあるのであれば、衰退する中心市街地地区を居住空間として再生する事業に置き換えるべきであったと思います。空き屋の多い元気の無い建物群をコンバージョン、リノベーション、インフィル開発を含めて複合的に企画すれば、都心の再生に寄与できるのではないかと思います。北方は開発が企画された時点では都心衰退の兆しがまだ顕在化していなかったとしても、県担当者はもちろん設計者も、状況変化に機敏に対応した計画変更が求められると思うのです。衰退する柳ヶ瀬や衣服問屋街の起爆になるようなプロジェクトに転化すべきだったのでしょうか。

### 2) なんで大規模・超高層による駅前再開発なの

超高層ビルに入居するテナントの多くは、結局 岐阜の中心市街地に立地していた機能が移転したのではないかと考えます。とすれば、超高層による駅前再開発もまた、中心市街地の衰退と空き屋化に拍車をかけただけなのではないでしょうか。その意味で、最後に見学した星が丘元町界隈の沿道型の開発は、低密度で場所性を読み取ったすぐれた開発だと思いました。駅前とは対照的に岐阜に見合ったプロジェクトとして成功している事例ではないかと思います。

### 3) 見事なアクセス空間、可児市営広眺ヶ丘住宅

勉強不足で、今回プロジェクトを拝見するのは初めて。アクセス側のグランドと建築を一体化した見事な解決策に脱帽しました。以前藤本さんが3階、4階、5階の住戸への接地性に、しつこく取り組んでいた意識がこの提案に結びついたのかと思いました。

### 4) 宅地の最低面積の大きさが居住環境を決める

コモンで造る住宅地の環境づくりに懐かしく拝見しました。戸建て住宅地の環境づくりは、建屋は極力「地」にまわって緑に埋没するのがよさそうです。しかし昨今の、最低宅地規模の狭小化は、1mの隣地後退と駐車場スペース以外は建屋といった状況で緑の中に建物を埋没することなどとても期待できないような条件になっているように思います。

以上

阿部先生すばらしい企画ありがとうございました。

名称: マザーヴィレッジ岐阜

概要

分譲戸建て住宅: 58 戸、分譲集合住宅: 48 戸、老人ホーム: 36 室 / 事業主体: 東進住建  
(分譲戸建て住宅)  
敷地面積: 151.53 m<sup>2</sup> ~ 182.06 m<sup>2</sup> / 販売価格: 3380 ~ 5180 万円 / 建物完成: H17.7 ~ H18.5

コメント

「マザーヴィレッジ岐阜」の計画と特徴<sup>1)</sup>

多様な世代、多様なライフスタイルに対応するため、敷地内に分譲戸建て住宅のほか、分譲集合住宅、介護付老人ホームを計画している。

セキュリティを重視するという方針から、ゲートで囲われており、住民はICカードを使って敷地内に入ることになる。コミュニティを重視するという方針から、集会所(「コミュニティハウス」)などを設置している。

見学の感想

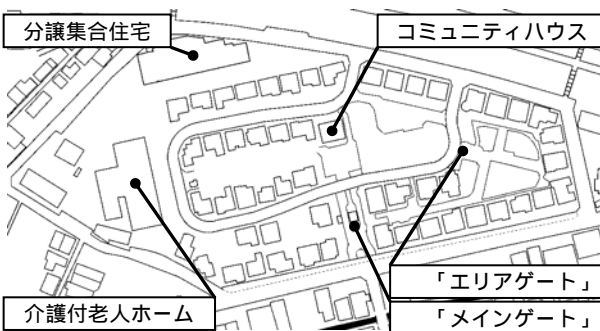
住宅の防犯性を向上するためには、まず建築計画的手法により対応することが基本である。そして建築計画的手法では解決できない危険性に対しては設備機器で補うというのが建築計画の筋道であろう。また、防犯性を高めるためには住民のコミュニティなどが必要であり、それを活性化するような建築計画的手法も必要になる。

「マザーヴィレッジ岐阜」では、防犯性を向上させる手法として、(1)ゲートや塀といった建築計画的手法、(2)監視カメラやICカードによるゲートといった設備機器、(3)コモンやコミュニティハウスの設置といったコミュニティ活性化の手法がとられている。以下、各手法について感想を述べたい。

(1)の手法については、住民はわが家意識を持ちやすく、愛着につながるというメリットはあるだろうが、囲い込むことで周辺地域との関係は希薄になるだろう。住民の生活が住宅地内で完結することはありえないため、住宅地も周辺地域になじませる工夫が必要であると感じた。(2)の設備機器は設置しなくても十分にならばり感が出ており、防犯上は設置しなくてもよいのではないかと感じた。このような設備は、従来の窃盗犯による犯罪は防げても、近年増加傾向にある逮捕や死を覚悟して犯罪を起こす凶悪犯には役に立たない。(3)コミュニティハウスは、住宅の規模に比して充実した室構成をしており、住宅地内のコミュニティ形成に寄与する可能性がある。しかし、計画されすぎ、あるいはお膳立てされた施設や設備に対しては住民の愛着も希薄になりがちであり、維持管理も難しいのではないだろうか。

注1) 「マザーヴィレッジ岐阜」HPを参考にまとめた。(http://www.mothevillage.jp/ , 2008.11.4access)

写真・図面等



「マザーヴィレッジ岐阜」HPより



氏名 伊丹康二 (大阪大学大学院)

名称： 岐阜県営住宅ハイタウン北方(1/5)

概要

所在地 岐阜県本巣郡北方町北方長谷川

施設内容 共同住宅、北方生涯学修センター(ホール棟、学習棟)、建築情報センター

コメント

「淡墨桜」と呼ばれる幻想的な桜が岐阜県にあることは知っていたが、大垣から北方を經由する樽見線の終着駅の本巣市にあることを今回知った。北方真桑駅は大垣駅から最初の主要駅で所要時間は約20分、朝夕は1時間、昼間は1時間半に1本の運行である。岐阜駅にはバス便で約40分、朝夕には1時間に3～5本走っている。人口約17,500人の北方町はマイカー依存度の大きい典型的な地方の町である。

県営住宅ハイタウン北方はのどかな田園風景の中に近代建築の牙城として完成しようとしている。

約10年前、南ブロック1期の完成時に見に行っている。4人の女性建築家による新しい住まいへの提案に注目をしながら建物を外から眺めた。

外観が目立ったのはシンプルな版状の妹島棟で、南面は全面ガラス、廊下側は真っ白で平滑な住戸壁とメタルのシースルー手すり壁、そして意表をつく鉄砲階段と棟の抜け穴テラスのアクセントという構成が見事な、きれいな建物だった。集合住宅をどのようにしてこんなにシンプルにまとめることが出来たのかを考えた。答えは住まうことの美醜を含めたエントロピーを住戸パッケージに封じ込めて、外側は極めてエントロピーが小さい状態に保つことだと解った。またこの建物は究極の片廊下建築であることが気になった。存在感をなくした手摺壁、住戸の扉をも埋没させた白い平滑壁の廊下は完璧に記号化された一望監視型空間である。極論すれば、その存在位置を肉体的には記憶していない自分の家に向かって歩いていく、すると突如どこかの家の扉が外に開いて人が出てくるのとぶつかったりする。気候の厳しい時期や風雨の日には廊下にも傘すら役立たないだろう。

写真・図面等

図 - 1



写真 1



名称: 岐阜県営住宅ハイタウン北方(2/5)

概要

コメント

これはホテルのビルディングタイプだと思った。ホテルならば生活の多くの要素が別の空間とシステムによってサポートされているし、廊下の快適性も確保されている。とてもきれいな建物だけれどこれではいけない。設計コンセプトとして「21世紀に向けた居住様式の提案」が言われていたが、東京都心型のそれも限られた人達の生活と人間関係でのモデルをこの地の21世紀様式にすることはとても無理だと思った。高橋棟では透明素材を使った間仕切りと土間通路の民家型プランを面白く感じたが、住戸内外を通じてあまりにも開放的で影の部分がないのが気になった。廊下は本質的に妹島棟と同じだが、夜は透明素材を通した住戸の明かりが味のある効果を出しそうだ。ディラー棟とホーリー棟はオーソドックスな作り方だと思った。廊下と住戸の関係がしっかりと出来ていて安心してアプローチできるのはディラー棟、住み易そうなのはホーリー棟、そんなことを思ったのを思い出す。その後忘れてしまっており、研究者等による追跡と議論がどのように展開されたかも不勉強で知らない。

今回訪れた時には南ブロック2期が完成(合計430戸)して8年経過しており、北ブロックAブロック1期工事(121戸)が完成していた。最終的には南北全体で1,500戸の団地になる計画である(図1)。

また象を撫でるように外から見て回ったのだが、完成した南ブロックを見た最初の印象が「近代建築の牙城」であった(写真1)。資料によると設計コンセプトには「ランドマーク的団地」とも記されているが、私のもつ地域イメージでは現状の2/3程度のボリュームに感じるようにまとめながら、密度感を高めたもう少し柔らかい表情の建物群でできた集落をランドマークにしたいという気がしたのである。

写真・図面等

写真 2



写真 3



名称: 岐阜県営住宅ハイタウン北方(3/5)

概要

コメント

4作家のコラボレーションへの期待は外れたと思った。もともと建物同士にハーモニーを求めていない作り方なので、それならばせめて外部空間に全体をつなぐ役割を果たさせたかったが、造園計画がコンセプチュアルなモダンアートをやってしまった(写真2)。上から見下ろす庭を意図したのかと思うが、相互関連なく茫洋として細部のない建物に囲まれた空間を一体化するには、頭ではなく肉体が快適に感じる場づくりの強い意図がなければならない。我々が我が家に帰るときの行動は、好みの風景の経路を選択しながらアプローチしていき、意識しないままに我が家を視野にとらえて自らが残した生活の痕跡を確認して納得を繰り返している。ちょうど動物がマーキングするのと同じである。ちょっとした隙間の演出やマーキングをしやすい効果的な仕掛けが多く用意されていると住人である我々は嬉しい。南ブロックは8年経過した空間にしては窓にもバルコニーにもあまり個性表現が表れておらず、全体の空間が豊かな雰囲気になってきていないと感じたが、マーキングの意思を起こさせるような工夫が欠けているのだと思う。外部空間では妹島棟のピロティーまわりのみがスケールよく、団地内から周辺道路にまで視線がつながり心地よい(写真3)。このあとは敷地を埋め尽くしている駐車スペースの植栽が成長して森になることを期待する。

写真・図面等

写真 4



写真 5





名称: 岐阜県営住宅ハイタウン北方(4/5)

概要

コメント

住棟について、まず妹島棟の増築が目についたが、以前にきれいと感じた版状建物がマスに見えて魅力を減じている。この建物がシャープなのは抜けの効果と妻側の形状なのだから屈曲部分に隙間があれば団地の印象が軽くなったと思う(写真4)。この棟の最大の特徴であり魅力である抜け穴テラスは現状では殆どが雑物置場と洗濯物干し場になっていた。ネガティブに表れたエントロピーの集積をここに見たと思ったがとてももったいない(写真5)。思うに、記号化廊下の随所に出現するこのアナログ空間を主玄関として使い個性表出の場にする、同時にLDとの間に開口を大きくとって内外を一体化するように構造の工夫をしたらどうなのか。一般にバルコニーは空中の庭なのか、大きな庇なのか、洗濯物の干し場なのか等が曖昧なままになんとか作られている場合が多いが、抜け穴にした広いバルコニーを明確な意図で作ると実によいと思う(写真6)。

懸案の住戸内部がどのように使いこなされているかはうかがい知れなかったが、妹島棟と高橋棟を外観から観察した。全面に使用している大きいカーテンの閉め具合やその内部には苦しそうな様子があちこちに見えたので、必ずしも見事には住みこなしていないと思ったが、これは私の推測であり正確ではない。しかし1棟に100戸以上の同型の住戸を貼り付けたからには、2期計画時にはそれなりのコンセンサスがあったと思うがどうなのだろう。

写真・図面等

写真 6



写真 7



名称: 岐阜県営住宅ハイツ北方(5/5)

概要

コメント

北ブロックはAブロックの半分(120戸)が完成した段階であったが、外観の印象ではかなり巨大なものを感じる(写真7)。この棟には町の生涯学習センター、建築情報センターが併設されていて団地が地域活動の拠点になるのは良い。少し気に入ったのはその外観の仰々しいデザインで、これも私の地域イメージと異なっていて好きでない。筋向いに建っている町立図書館が古い樹木や門と一緒に丁寧にデザインされていたのと好対照である(写真8)。住戸設計には国内外の8人の設計者が参画している。詳しくは分からないが多彩な展開が望めそうで良い。

こだわるが資料でみる全体計画は巨大であり、21世紀を標榜する団地を20世紀の手法で作っている感がしてならない。完成までにはまだ長期間を要するだろうから時代状況にもかなりの変化があるだろう。Cブロック予定地付近にはまだ旧住棟が残っている。解体理由はそれなりにあるだろうけれどこれらの建物を使ったりリノベーション計画が可能になれば、全体計画の牙城の一角に非対称のバランスが生まれるかもしれないという想像をしながらこの地を離れた(写真9)。

写真・図面等

写真 8



写真 9



名称:可児市営広眺ヶ丘住宅

概要

裏山の擁壁と一体化させて4階建ての中層住棟を計画した公営住宅

コメント

裏山の地形に応答した配棟計画により、住棟を擁壁に沿うように配置し前面にオープンスペースを作り出している。段々の擁壁は各階のアクセスとして機能し、擁壁に設けられた歩行者通路(廊下)からブリッジをわたって、2戸1の住戸にアプローチする形式を採用している。開放型片廊下が発展したフライングコリドー型を地形と一体化した形式と見することもできる。一方で、通常は擁壁の造成工事(土木)と住棟建設工事(建築)と分かれてしまう部位について、土木と建築のコラボレーションにより巧みに一体化して計画した意欲的な事例と位置づけられる。

結果として生まれた空間は、その独特の断面構成を反映して、立体的かつ都市的なものとなっている。各住戸へのアプローチは空間体験も豊かであり、加えて廊下側への光や風の導入もはかられ快適な空間となっている。

空間構成はきわめてシンメトリカルで、中央に設けられたスリットからシンボルツリーに向かう軸線に対称形に構成されているが、周辺市街地からのアプローチや地形とのより精密な応答を考えるならば、シンメトリーをやや崩した構成として、空間のシークエンスをより多様に編み上げる計画も可能であったのではと考えられる。また、北側に隣接する緑地へと擁壁の通路の最上部が接続されるなどすれば、歩行者ネットワークが周囲へと展開することも可能であり、さらに本計画の構成上の潜在性が活かされたのではと考えられる。

写真・図面等



氏名 田中友章

名称：グリーンテラス城山（桃花台ニュータウン）

概要

愛知県小牧市城山5丁目58他 計画戸数：100戸 街区面積：32,565.96㎡ 事業者：愛知県  
基本計画：宮脇檀建築研究室 竣工：1990年 建築協定・地区計画

コメント

計画のポイントは以下の通り。

- ・ループ道路（幅員6m）が住宅地中央を回旋。
- ・ループ道路への自動車の進入路は4カ所に限定。
- ・住戸はコモン広場を3-6戸で囲むクラスター形式。
- ・コモン広場入り口幅員は3.5mとし植栽帯で絞り、クラスターの領域性を確保。
- ・コモン広場、ループ道路の植栽帯は住宅地全体の共有地。
- ・コモン広場は2台目の駐車場として利用。
- ・ループ道路は市に移管。
- ・ループ道路両側1mには植栽帯が設けられ、灌木と高木を植栽。
- ・ループを繋ぐフットパス（幅員2m）。
- ・敷地境界は全て生垣。
- ・住戸の向きを一様としない。
- ・門扉を利用して設備系機器メータ類を集約化。

ゆるやかに曲線を描くループ道路が特徴的である。全体としてゆるやかに傾斜する地形と調和している。3～6戸程度の住戸クラスターは、まとまりのよいコミュニティをつくるきっかけとなるであろうことが想起される。

コモン広場は住宅地全体の共有地となっているようで、1戸あたりの共有地面積も60㎡を超える。ループ道路両側1mには植栽帯などの共有地の植栽と私有地の植栽とが一体となって豊かな緑地環境を形成している。

「グリーンテラス城山は、空間のつくり方が住環境管理の方向をよい方向に導く仕組みがある」と、すでに報告があるが、確かにスケール感に優れたコモン空間がある住宅地は、街並み形成とコミュニティにもよい影響を与えることがイメージされる。

同じ宮脇事務所による北九州市の「高須ぼんえるふ」では、コモン側、いわゆる表側に多くの増築が見られるが、ここではそういったつくりこみはあまり見られなかった。

写真・図面等



氏名 田上健一

名称：桜ヶ丘ハイツ

### 概要

桜ヶ丘ハイツは、岐阜県可児市南東部の丘陵地帯にある大規模住宅団地である。桜ヶ丘、阜ヶ丘、桂ヶ丘の3地区からなる。名古屋のベッドタウンとして1973年に販売・入居開始。世帯数は約3,200世帯、人口は約9,300人(2007年12月時点。)

開発事業者は統一された景観とゆったりとした住環境(住宅敷地面積は最小でも230㎡)を整えた、4地区人口2万人、5,000世帯の街を目指していたが、経済状況の変化と住宅団地のコンセプトを担ってきた開発事業者の社長の死亡により、開発は計画の半分程度に留まっており、1地区は手つかずとなっている。

開発事業者は不二企業、基本計画者は不二企業・宮脇檀建築研究室。

### 参考文献等

- ・ぎふまちづくり支援プラン別冊まちづくり事例集、岐阜県、平成19年6月
- ・ふるさとまとめて情報発信・・・可児市桜ヶ丘より <http://www.wa.commufa.jp/~tsubosan/>
- ・コモンでつくる住まいまち人、齊藤広子・中城康彦、彰国社、2004年

### コメント

- ・緑の景観に配慮した計画、ゆったりとした住宅の区画と道路計画等によって、魅力的な郊外住宅地になっている。
- ・各住宅の屋根にアンテナがなく、電柱も必要最小限の設置であるため、空への視界が良好である。
- ・団地に入って最初に目に入る芝生の歩道と並木によって、豊かな郊外住宅地の印象を与える(写真1)。
- ・住宅敷地の前面道路側の生け垣を、セットバックして設置させている(写真2)。私有地をまちなみ形成に供出するこのような計画意図を家主がどのように了解して購入したか興味深い。
- ・住宅の間に幾つか計画されている歩行者専用の緑道も、空間的にゆとりのある住宅地として良い印象を与える(写真3)。今回見たものは、良い管理状態であった。管理委託先は専門業者なのか自治会等の住民組織なのか、現時点では資料不足で分からない。また、緑道全体を比較すると管理状態に何らかの差異がありそうである(既に調査研究が実施されている気もする)。
- ・いくつか芝生の空き地があった(写真4)。小学校登校時の集合場所と推測されるものもあった。確認する必要があるが、これがもし売れ残りの空き地であるならば、誰が芝生によって整備する手間をかけているのを知りたいところである。
- ・桜ヶ丘ハイツも近い将来に高齢者世帯の増加が見込まれるが、住民の意識も高そうであり、今後の変化を定期的に評価する必要がある事例ではないだろうか。

### 写真・図面等



写真1 並木・芝生によって整えられた歩道



写真2 セットバックした生け垣



写真3 住宅間にある歩行者専用の緑道



写真4 芝生の空き地(売れ残り?)公園?

氏名 森永良丙